

# 水産経済新聞

THE SUISAN - KEIZAI

2020年(令和2年)

9

23 (水)  
Wednesday

発行所 水産経済新聞社 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番19号 電話 03-3404-6531(代) FAX 03-3404-0863

## 徳島魚市場が仲卸参入

### 東京・大田市場で始動

#### 養殖魚の消費地加工強化

地方都市の中央卸売市場の水産卸がこのほど、大都市・東京の中央卸売市場の水産仲卸に参入した。徳島魚市場(吉本創一社長)は、グループ会社の旭物産(同)の完全子会社として江戸旭(鈴木俊介社長)を設立。大田市場に5小間(加工スペース4小間、冷蔵スペース1小間)を有する水産仲卸として17日に営業を始めた。グループ内で調達した養殖魚を中心にファイル(三枚おろし)やロイン(四ツ割り)に加工する消費地加工拠点として、業務用の納めや量販店・スーパー向けの供給に対応していく。



徳島魚市場の吉本社長(左)と江戸旭の鈴木社長

6月21日に改正卸売市場法が施行され、卸・仲卸のいすれも業務に対する自由度が少なからず増大の影響もあつて改正市場法で期待された市場活性化につながるような動きはみえなかつた。ここに徳島魚市場グループ

が一石を投じた形だ。営業開始前々日の15日から現地を訪れていた吉本社長は「中央卸売市場の卸と仲卸の分業は世界的に優れた仕組み。場外にも負けないそれをわれわれの手でもっと強化したいと思つたのが水産仲卸進出を目指したきっかけ」と話す。最初の活路に、徳島市中央卸売市場における卸と仲卸の関係を磨きながら、グループ会社の営業所を展開していった東京に求め

た。世界最大の東京・豊洲市場進出も検討したが、最終的に決まったのは水産加工場として利用する自由度が高かつた大田市場の水産物部。コロナ禍による事業環境の急変もあって大田支社の再編を検討していた、豊洲のマグロ専門仲卸やま幸(山口幸隆社長)から、事業譲渡を受けることで話がまとまった。やま幸旧大田支社の鈴木俊介支社長



江戸旭の加工場。11月には水産機械が追加導入され生産力強化が図られる

を新会社の社長に抜擢(つき)。旧来の社員4人代のホテル・会館・機内食向けのマグロ加工品の納めを継続しながら、同ルートにブリ、タイ、カンパチ、シマアジ、ヒラメなどの養殖魚や、一部天然魚の一次加工品を

提案。同時に量販店・スーパーの加工ニーズを取り込んでいく。吉本社長は「鮮度面が課題となり産地加工で難しいところが、消費地加工なら実現できる。江戸旭を徳島県の水産物の販売拠点にしたい」と意気込む。中堅規模の量販店・スーパーに店舗バックヤードの代替として利用するよう呼び掛けていく考え。委託加工も請け負う。現在の供給可能量は日に1.5程度だが、11月から各種の水産機械を新たに導入し、2.5倍から3倍に一日の生産量を伸ばす計画。「水産卸にはできない仲卸独自の特性を生かした仕事を手掛けることは、グループ全体にも好影響を与えるのでは」と期待している。

#### 徳島産魚の拠点に

今後は豊洲のやま幸と